



前川耀男区長 第四回区議会定例会 記者会見 世界都市農業サミットを開催

と き 12月9日(月) 午後2時30分~2時45分

と ころ 練馬区役所(豊玉北6-12-1)

9日、前川耀男(まえかわあきお)練馬区長が、令和元年第四回練馬区議会定例会にあたって記者会見を行った。

区として初めて開催した、日本初の都市農業に関する国際会議「世界都市農業サミット」を振り返り、その意義と今後の展望を語った。

前川区長は、「参加したジャカルタ、ロンドン、ニューヨーク、ソウル、トロントの参加5都市とは、歴史、社会的な背景は異なるが、都市農業の社会的意義を確認し、共有することができた。サミットで培った各都市とのネットワークを活かし、都市農業の魅力と可能性を世界に発信し、練馬の都市農業の更なる発展に繋げてきたい。」と述べた。



【記者会見を行う前川区長】

【世界都市農業サミット宣言】

サミット宣言では、農のある都市で暮らすことに誇りを持ち、持続可能で豊かな生活を送るために、都市農業の意義と可能性を確認し、以下の3つの内容を宣言した。

- 1 ‘都市農業’は、いのちを育む
- 2 ‘都市農業’は、歴史と文化を育む
- 3 ‘都市農業’は、公正で開かれた社会を育む

【参加都市】

ジャカルタ、ロンドン、ニューヨーク、ソウル、トロント

前川区長 記者会見

世界都市農業サミットを開催



令和元年12月9日 練馬区

(1) 開催の趣旨

練馬区は、大都市東京の都心近くに立地しながら、市民生活と融合した生きた農業が営まれています。都市農業は、都市生活に新たな豊かさをもたらすものであり、練馬区の誇りです。この農業と農地を守り、次世代に引き継ぐことが区としての重要な責務です。

世界都市農業サミットは、練馬の都市農業の魅力と可能性を世界に発信し、参加都市が相互に学び、更に都市農業を発展させていくために開催したものです。



(2) 来場者数 (速報値)

日程	事業名	来場者数
11月29日	世界都市農業サミット記念コンサート World JAZZ	1,402名
11月30日	世界都市農業サミット記念 練馬大根引っこ抜き競技大会	481名
	国際会議・分科会 (定員360名)	延べ 650名
12月 1日	国際会議・シンポジウム (定員592名)	延べ 900名
	ねりマルシェ	延べ 13,500名
	ねりまワールドフェスティバル	延べ 10,000名
		延べ 26,933名

(3) 被招聘者

ニューヨーク



ビル・ロサツソ氏
ニューヨーク市 公園局 グリーン
サム部長



ネヴィン・コーエン氏
ニューヨーク市立大学大学院 公
衆衛生学専攻 准教授



リズ・ヌーマーク氏
グレイト・パフォーマンスCEO兼
カチキー・ファームおよびシルビア・
センター創設者

ロンドン



マーク・アインズバリー氏
大ロンドン庁 再生経済部門
食料政策係長



アンドレ・フルヨン氏
ブライトン大学 建築学専攻
教授



サラ・ウィリアムズ氏
NPOサステイン プログラムディレ
クター

予定と変更になった被招聘者
ジャカルタのダルジャムニ氏が、
タウフィック・ユリアント氏に、
トロントのロリ・スターブランド氏が、
ジェームズ・クーンズ氏に
変更になりました。

ジャカルタ



タウフィック・ユリアント氏
ジャカルタ首都特別州 水産農業
食料安全保障局 農業部 都市
農業課長



ディア・メイディアンティ氏
チトラ・ナガ・チュムラン社 植物
防疫研究所長



**ラティファ・アブドゥル・
ソマド氏**
南ジャカルタ市 都市農業者団体
代表

ソウル



ソン・インボン氏
ソウル特別市 経済政策室
都市農業課長



イ・チャンウ氏
韓国都市農業研究所長



カン・ハンソン氏
江西農業協同組合 農業指導
者ソウル特別市連合会 西部
地区会長

トロント



ソニア・ディール氏
トロントおよび地域保全局ハン
パー川・都市農業プログラム事業
担当課長



ロンダ・テイテル=ペーン氏
NPOトロント・アーバングロワーズ
コーディネーター



ジェームズ・クーンズ氏
NPOトロント・アーバングロワーズ
コーディネーター

(4) 「練馬の都市農業」の視察 —都市農業の多面的機能を実感—



大泉第二小学校6年生の合唱による視察団歓迎



農業体験農園での炊き出し訓練に参加し、農地の防災機能を体感



コインロッカー式直売所で農作物を購入



ブルーベリー摘み取り園を熱心に視察

(5) 国際会議・分科会 ー相互に学び、議論を深めるー

分科会 農産物の生産・流通・消費

テーマ

都市における農産物生産と販売について考える



主に、ビジネスとしての都市農業について議論を行った。一番重要なことは農業や食を通じて人々が共通の価値を見出し、これにより、都市農業が人と人をつなげる共通項として機能している点であることが指摘された。

分科会 都市農業の多面的機能

テーマ

都市の農業を活かしたコミュニティづくり



主に、農的活動による社会的課題解決について議論を行った。練馬における経営としての農業と、コミュニティガーデンが主となっている他都市との違いはあるが、その活動が社会的役割を果たしていることは同じであることが指摘された。

分科会 農地の保全・創造

テーマ

都市における農を活かしたまちづくり



主に、農地を活かしてどのようにまちづくり・都市づくりができるかということについて議論を行った。地域や様々な社会的組織における連携が欠かせないという点が各都市の取組で共通していること、社会的役割に配慮しながら都市農業をいかに社会制度の中に位置づけていくかが重要であることが指摘された。

(6) サミット宣言に向けた意見交換会

練馬を含む各都市の参加者が集まり、サミット宣言について意見を交換した。



(7) 国際会議・シンポジウム –都市農業のさらなる振興に向けて–



被招聘者によるプレゼンテーション

海外参加者からはNPOやボランティアが運営するコミュニティ農園の事例が数多く紹介された。

海外では都市農業を使ってコミュニティ形成に関わる各都市特有の課題を解決し、公正な社会づくりに取り組んでいる。一方、練馬の農業者が実践していることそのものであり、これら観点からも社会的役割を果たす農業者の存在は大きな意義を持っており、都市農業は都市に必要なだと締めくくられた。

分科会、シンポジウムを踏まえ、参加者の総意として、世界都市農業サミット宣言を発表し、閉幕した。

サミット宣言を発表する後藤副会長



参加都市代表者によるパネルディスカッション



世界都市農業サミット宣言

練馬区において開催された「世界都市農業サミット」において、都市農業を積極的に推進するジャカルタ、ロンドン、ニューヨーク、ソウル、トロントの参加5都市と練馬区は、都市農業に関する取り組みを相互に学び合い、情報共有を進め、活発な議論を行った。

私たちは、世界の人びとが農ある都市で暮らすことに誇りを持ち、持続可能で豊かな都市生活を送るために、以下に「都市農業」の意義と可能性を確認し、ここに宣言する。

1. 「都市農業」は、いのちを育む

都市農業は、農産物の生産によって、都市に暮らす人間のいのちの糧を提供している。また、気候変動の緩和・適応のための重要な手段となりうる。それだけでなく、都市の持続可能性を高め、多くの生き物のいのちを育てている。

2. 「都市農業」は、歴史と文化を育む

都市農業は、人と人とのつながり、そして、人と自然とのつながりを創り出す。そのつながりをもとに、都市の人びとは、歴史と文化を継承、創造し、発展させている。

3. 「都市農業」は、公正で開かれた社会を育む

都市農業は、誰もが等しく農に触れ、耕し、農の恵みを享受する場となりうる。それは、社会的課題を解決し、公正で開かれた社会を創り出す。

これからも私たちは、「都市農業」が持つ魅力や可能性を世界の人びとに発信していく。本サミットで培ったネットワークを活かし、相互に連携しながらその可能性を拓き、新たな取り組みを広げることで、「都市農業」の発展に貢献する。



2019年12月1日
世界都市農業サミット 参加者一同

(8) 区民とともに行ったイベント

ジャズコンサート World JAZZ

満員の練馬文化センター大ホールで、参加都市ゆかりの曲を演奏し、被招聘者を歓迎した。



練馬大根引っこ抜き競技大会

練馬の伝統野菜「練馬大根」の引っこ抜き。駐日大韓民国大使館や外国人留学生などもグループで参加し、国際色豊かに開催した。



ねりマルシェ

大人気のねりマルシェ。練馬大根をはじめ用意された野菜はあっという間に完売。留学生が農業者とともに出店ブースで野菜や花を販売する「マルシェ体験」も行われた。



ねりまワールドフェスティバル

海外の美味しい食べ物やお酒を販売、ステージイベントや体験事業とともに、さまざまな国の文化を五感で堪能していただき、大盛況のうちに終了した。



みんなde農コンテスト

昨年度のプレイベントでコンテスト企画実施部門に入賞した3団体が、1年間かけて実際に取り組んだ企画の結果をプレゼンテーション。審査の結果、区立開進第二中学校農部が大賞に選ばれた。



プレゼンテーションの様子



表彰式の様子



参加団体の皆さん

左：東京学芸大学付属国際中等教育学校Eaport

中：区立開進第二中学校農部

右：NPO法人 みどり環境ネットワーク！・みやべぶどう園

世界都市農業サミット宣言

練馬区において開催された「世界都市農業サミット」において、都市農業を積極的に推進するジャカルタ、ロンドン、ニューヨーク、ソウル、トロントの参加5都市と練馬区は、都市農業に関する取り組みを相互に学び合い、情報共有を進め、活発な議論を行った。

私たちは、世界の人びとが農ある都市で暮らすことに誇りを持ち、持続可能で豊かな都市生活を送るために、以下に“都市農業”の意義と可能性を確認し、ここに宣言する。

1. “都市農業”は、いのちを育む

都市農業は、農産物の生産によって、都市に暮らす人間のいのちの糧を提供している。また、気候変動の緩和・適応のための重要な手段となりうる。それだけではなく、都市の持続可能性を高め、多くの生き物のいのちを育んでいる。

2. “都市農業”は、歴史と文化を育む

都市農業は、人と人とのつながり、そして、人と自然とのつながりを創り出す。そのつながりをもとに、都市の人びとは、歴史と文化を継承、創造し、発展させている。

3. “都市農業”は、公正で開かれた社会を育む

都市農業は、誰もが等しく農に触れ、耕し、農の恵みを享受する場となりうる。それは、社会的課題を解決し、公正で開かれた社会を創り出す。

これからも私たちは、“都市農業”が持つ魅力や可能性を世界の人びとに発信していく。本サミットで培ったネットワークを活かし、相互に連携しながらその可能性を拓き、新たな取り組みを広げることで、“都市農業”の発展に貢献する。



2019年12月1日
世界都市農業サミット 参加者一同

December 1, 2019

Urban Agriculture World Summit: Declaration

Urban Agriculture World Summit was held in Nerima City, Tokyo, and attended by representatives of five other cities that are also proactively promoting urban agriculture initiatives: Jakarta, London, New York, Seoul, and Toronto. Summit participants learned from one another's urban agriculture efforts, shared information, and engaged in lively discussion.

In order for people in cities around the world to proudly live in harmony with agriculture and lead sustainable and abundant urban lives, the participants agreed upon the following declaration affirming the significance and potential of urban agriculture.

1. Urban Agriculture Can Nurture Life

Urban agriculture provides the staff of life to people in cities by producing agricultural goods. Urban agriculture can be an important strategy to mitigate and adapt to climate change. Moreover, it promotes urban sustainability and nurtures lives.

2. Urban Agriculture Can Preserve History and Foster Cultural Diversity

Urban agriculture connects people with one another and with nature. Based on these links, people in cities pass on, create, and develop historical and cultural traditions.

3. Urban Agriculture Can Create Just and Open Societies

Urban agriculture has the ability to create platforms for everyone to learn about and engage in agriculture on equal terms, and to share equally in its bounty. This resolves social issues and creates just and open societies.

We will continue to communicate the appeal and potential of urban agriculture to the people of the world. Utilizing networks built up by this summit, we will collaborate in contributing to the development of urban agriculture by opening up possibilities and extending new initiatives.



The Participants
Urban Agriculture World Summit